

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0174100461		
法人名	特定非営利活動法人 わたぼうしの家		
事業所名	グループホーム さんぼみち		
所在地	北海道釧路市千歳町13番7号 (電話) 0154-44-1123		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成21年3月11日	評価確定日	平成21年4月10日

【情報提供票より】(平成21年2月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	14人	常勤	7人, 非常勤 7人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	20,000円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000円	

(4) 利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.1歳	最低	78歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ふくしま医院 ふくしま歯科医院 清水桜ヶ丘病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム開設前から地域と密着したホームづくりを前提として設立しており、法人の理念として「老いても安心して住むことができる地域、共に支えあい、安心して老いられる地域づくり」を基本として利用者の尊厳を守り、本人本位の生活が送れるように支援しています。また、運営者は「ホームの姿勢が職員を育てる」との考えで、内部・外部の研修機会を多く作り、職員に対し教育を充実させることでプライドを持ってもらい仕事の自信に繋げています。交換研修も積極的に受け入れて感じたことをレポートにて提出していただき、内部研修や日々のケアの参考にしています。市と連携した地域に密着した活動に取り組んでおり、傾聴・趣味などの参加型のボランティアの方が多く訪れています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、運営推進会議の議事録を漏らさず作る点でしたが改善されています。話し合われる議題を明らかにして、それに添って警察者や消防署など必要な機関の担当者を招いて現状や対策の説明がなされており、詳しく解りやすい議事録になっています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全職員で実施し、業務の見直しやケアサービスを振り返る機会として捉えています。また、外部評価の結果については運営推進会議や家族会にその内容について報告しています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、評価日現在5回実施されています。主な議題についてはホームの状況説明(利用者の介護度・職員体制・介護保険制度改正) 消防法施行令の一部改正に伴う説明 SOSネットワークシステムの説明と活用 包括支援センターの説明と利用説明 行事の説明と協力をお願い
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族とは、気軽にホームについて意見や不安なことを言っていただけ関係構築、健康状態や生活状況についても詳細に報告されています。家族会との意見交換や月初に発行する通信「さんぼみち」では、行事の案内や日常ホームの生活の様子、行事や誕生日会の様子を写真を取り入れて見易く作成されており、職員や家族から寄稿もいただき充実した内容になっています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域の一員として行事や活動に参加し交流を深めています。また、隣接した小学校が閉校になり子供たちとの交流が無くなりましたが、代わりに地域の児童館の子供たちや中学校の生徒との交流が出来るように取り組んでいます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設前から地域と密着したホームづくりを前提として設立しており、法人の基本理念として「老いても安心して住むことができる地域、共に支えあい、安心して老いられる地域づくり」として事業所独自につくりあげている。		「家族介護教室」「やすらぎ支援事業」「地域食堂」「地域交流会」の地域に密着した活動が既実践されている。また、地域の人を対象にホームを利用したデイサービスやショートステイの受け入れを行なっている。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長は「良いケアは理念なくしては無い」との考えがあり、さんぼみち理念「共同生活を営む一人ひとりの尊厳を守り、より豊かな人生を送っていただく」を職員間で共有してその実践に向けて日々取り組んでいる。		理念達成のために職員との四つの約束「走らない、大声をださない、腰をおとす、言葉に気をつけよう」があり、常に利用者との真摯に向き合うことを心掛け、実践に向けて日々、取り組んでいる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の一員として行事や活動に参加し交流を深めている。また、隣接した小学校が閉校になり子供たちとの交流が無くなったが、代わりに地域の児童館の子供たちや中学校の生徒との交流が出来るように取り組んでいる。		釧路市の「家族介護教室」や「やすらぎ支援事業」を受託して、家族介護者の支援や認知症高齢者が地域の中で安心して暮らしていける支援が行われている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で実施し、業務の見直しやケアサービスを振り返る機会として捉えている。また、外部評価の結果については運営推進会議や家族会にその内容について報告している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については評価日現在5回開催されている。委員は家族、町内会3役員、地域包括支援センター、民生委員・児童委員、警察職員、消防職員、管理者及び職員で構成され、ホームの近況報告や地域の課題について話し合わせ取り組んでいる。		日頃から地域の方々との交流があり、有事の際は、すぐに協力していただける関係が構築されている。運営推進会議の際にも、必要な関係機関の担当者を招いて説明会や報告会がされていますが、定期的な開催には至っていないので、今後は定期的開催できるように検討している。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	釧路市受託事業の「家族介護教室」「やすらぎ支援事業」で家族介護者の支援や高齢者を地域の仲間で支え暮らしていく支援が行われ地域に密着した活動に取り組んでいる。国、道、釧路市と共にケアサービスの質の向上に取り組むための意見交換や現地評価が行われている。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会との意見交換や月初に発行する通信「さんぼみち」では、行事の案内や日常ホームの生活の様子、行事や誕生日会の様子を写真を取り入れて見易く作成されており、職員や家族から寄稿もいただき充実した内容になっている。また、金銭管理についても報告されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは、気軽にホームについて意見や不安なことを言っただけの関係築き、健康状態や生活状況についても詳細に報告されている。また、家族会や運営推進会議で意見や要望を外部者へ表せる機会を設けており、それらを運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は個人的事情（配偶者の転勤や結婚）以外は離職が少なく、なるべくストレスを溜めないように仕事上の悩みや相談ごとを聞くようにして離職を必要最小限に抑えるように努めている。		職員の資格取得やスキルアップのための取り組みの支援を積極的に行うと共に職員に対し教育を充実させることでプライドを持ってもらい仕事の自信に繋げている。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部の研修の機会を多く作り、職員に対し教育を充実させることでプライドを持ってもらい仕事の自信に繋げている。また、交換研修を積極的に受け入れ、感じたことをレポートにて提出していただき、内部研修や日々のケアの参考にしている。		勤務中に気付いたことは、その日のうちに解決できるように努めている。職員との四つの約束「走らない、大声をださない、腰をおとす、言葉に気をつけよう」があり「利用者の普通の家がここにあるので生活を脅かさない」の実践が行われている。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長は、地区のグループホーム協議会を立ち上げ、北海道認知症高齢者グループホーム協議会の理事とし又北海道認知症介護指導者として研修の講師も務めており、グループホーム全体のケアサービスの質の向上に取り組んでいる。また、他のホームの職員の実習を受け入れるなど、相互の交流を図りサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用する際には、ご自宅への訪問とホームへ来訪して貰い、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫して取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が本人本位の生活を送れるように役割を持ってもらう場面をつくり、できるだけ自己決定できるように取り組んでいる。利用者の過去の大事な出来事や生活歴を踏まえて、本人の思いや意向を把握して、職員は本人と家族のように行動し、感情を共感し、支えあう関係構築に努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	一人ひとりの思いや意向の把握に取り組んでおり、地元の新聞社へ短歌の投稿やピアノの演奏の趣味への支援、料理の準備、お茶の準備などの役割支援、散歩や買い物など本人の希望や意向を尊重した取り組みがなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護計画は本人、家族の希望や要望を聞き、センター方式のアセスメント表を使い作成しており、毎月のカンファレンスで職員全員による意見交換と今後の方向性を確認し、実践の意思統一を図っている。また、カンファレンスの記録、アセスメント表、介護計画、日常のケア記録が連動しており、ケアの質の向上に活かされている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護支援専門員が中心となって、3ヵ月に一度アセスメント及び介護計画が見直されている。また、日常の様子や会話の中で状態の変化を捉え、本人や家族と相談しながら随時、見直しを行い、現状に即した介護計画となっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	利用者の身体の状況によるが、法人で運営している事業には柔軟に参加できるようにしている。また、本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、通院や往診など種々の要望にも対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者をよく知るかかりつけ医や訪問看護師とは気軽に相談できる関係が築かれており、定期的に往診や健康管理、医療相談をしてもらい、安心して生活できるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、ホーム長は「通常時によいケアができなければ看取りのケアはできない」と考えており、早い段階から本人・家族と意志を確認して指針を作成している。また、かかりつけ医等と繰り返し話し合いを行い、職員間でも方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに向き合い、職員との四つの約束の「言葉づかいに気をつける」を実践し、誇りやプライバシーに配慮したケアに取り組んでいる。損ねる場合があった時には対応が適切だったかを職員間で検討している。記録等の個人情報については十分注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望や思い、ペースを尊重して持続可能な生活を送れることを第一に考え支援している。また、その支援が職員側の都合によるものになっていないかを、話し合い検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや希望を日常の会話から聞き、提供している。食事が楽しみなものになるよう、食材購入や料理の準備、盛り付け、配膳、後片付け等の生活支援を職員と利用者が一緒になって行っている。また、職員も一緒に和やかに食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低、週2～3回を基本として、体調を踏まえ、希望やタイミングが合えば、いつでもゆっくりと入浴できる体制になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴が把握され、お茶の準備、洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理などの役割ごとや散歩や買い物の気晴らしの支援が行われている。また、地元の新聞社へ短歌の投稿やピアノの演奏の趣味への支援も行われ、利用者が好きなことや力が発揮できることを実現できるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム長は常に「刺激は外にある」を信条として積極的に外出の機会を作っている。日常的な買い物や散歩、動物園や芝桜見物、ラーメンなどの外食など本人の希望や意向、体調に合わせて戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、夜間の防犯の目的以外は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震、水害の避難訓練は年1回利用者や町内会の方たちも参加して行われている。また、運営推進会議を通じて、ホームの体制や利用者の状態を理解してもらい、緊急連絡先には町内の方にも入っていただき、災害時には駆けつけてくれる体制ができています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良いメニューになるよう心がけ一人ひとりが食べる量も配慮しながら配膳している。また、具体的な食事や水分の摂取量、栄養バランスなど一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、利用者が過ごしやすいようになり、季節にあわせた飾りものや所々に椅子やテーブルが配置され、思い思いに自由に過ごせる空間作りとなっている。小上がりがあり、お茶を飲んだり、会話を楽しんだりするスペースになっており、土間では餅つきや洗濯物が干され、ウッドデッキでは外気浴が出来るようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が長年使い慣れた家具などが持ち込まれ、家族の写真や観葉植物が飾られ居心地がよく安心して過ごせるように工夫している。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。